

令和元年10月15日
愛媛大学

愛媛大学医学部附属病院小児科病棟において 「愛 GIVER project 募金活用事業 フットサルリボン in えひめ」 を開催します



愛媛大学医学部附属病院小児科病棟において、このたび「愛 GIVER project 募金活用事業 フットサルリボン in えひめ」を下記のとおり開催します。

このイベントは、がん支援活動の一環である「愛 GIVER project」募金で集まった寄付金と協賛金の一部を有効活用するため、プロフットサル選手であり、がん経験者でもある久光重貴選手（湘南ベルマーレフットクラブ所属）がご自身の体験をもとに講演（19日）を行う等、がん患者への支援と家族のサポートを目的に実施するものです。

今回、本イベントの一環として、久光選手が当院に来院し、小児科病棟に入院している子どもを訪問後、プレイコーナーにて子どもたちやそのご家族と一緒にフットサル体験を行います。

つきましては、地域へ広く周知いただきますとともに、取材くださいますようお願いいたします。

記

日 時：令和元年10月18日（金） 14時30分～16時30分

場 所：愛媛大学医学部附属病院 小児科病棟

主 催：愛媛新聞社

※送付資料2枚（本紙含む）

本件に関する問い合わせ先

医学部総務課企画広報チーム 南部・友澤

TEL：089-960-5943(5225)

Mail：mekoho@stu.ehime-u.ac.jp

「愛 GIVER project」(愛ギバープロジェクト)について

・企画概要

現在、日本人の2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで亡くなると言われています。愛媛県のがん死亡率(2016年)は全国ワースト11位と全国平均を上回っており、がん死亡率の改善には生活習慣の見直しやがん検診受診率の上昇が必要とされます。一方で、近年の医療技術の進歩によりがんサバイバーの生存率は上昇しており、がんとうまく付き合いながら生活する時代になりました。しかし、がんサバイバーの勤労者のおよそ3人に1人は依願退職や解雇されているなど、社会の理解と支援がまだまだ不足しているのが現状です。

そこで本プロジェクト(2018年9月スタート)では、四国がんセンターやがん患者支援団体らの協力を得て、がんに関する正確な情報を提供することと、がん患者の社会復帰を目指すいわゆる両立支援について啓発するという目的を通じて、社会全体を挙げたがんサポート体制の構築を目指しています。

・2018年度の取り組み

初年度の2018年度は、乳がんと子宮頸がんの編集特集の掲載、愛媛新聞 ONLINE 内にごんに関する特設ページを開設し、ごん関連イベントの紹介や、愛媛新聞本紙に掲載したごん関連記事の掲載しています。

2019年2月には「ごんと共に生きるセミナー」を企画し、がん患者だったタレントの川島章良さん(はんにゃ)や四国がんセンターの医師らによる講演会、さらにはがん患者や医療従事者らの交流を図るごんカフェを実施しました。

・2019年度の取り組みと今後の予定

2019年度は、乳がん・肝がん啓発紙面、がん患者だったファイナンシャルプランナーのコラム、がん患者の災害対策、両立支援やがんゲノム医療の連載、啓発セミナー・ごんカフェの開催などを実施します。

・募金活動

2018年から医療機関や薬局、イベント時などに専用募金箱を設置しています。昨年度募金で集まった約66万円と企画協賛金の一部を活用し、現役のプロフットサル選手で、がんサバイバーでもある久光重貴氏を迎えて「フットサルリボン in えひめ」を開催する運びとなりました。

18日に愛媛大学医学部付属病院小児病棟訪問とフットサル体験、19日に記念講演(愛媛新聞社1階ホール)を開催します(小児病棟訪問は、プレスリリースをご参照ください)

・問い合わせ先 愛媛新聞社営業開発部 大野・政木・野依(のより)

電話 089(935)2313